

レジ袋を減らそう

問い合わせ先 環境課環境政策係
☎(25) 1111

菊池市では、市内の女性団体と生活環境推進委員で構成する「菊池市マイバッグ運動推進市民会議」の皆さんと、ごみの減量化を目的として、平成10年からマイバッグ運動を推進しています。でも、マイバッグの持参率は上がっていないのが現状です。そこで、今回は「レジ袋」の何が問題なのかを少し掘り下げて考えてみます。



「菊池市マイバッグ運動推進市民会議」の皆さん

レジ袋の歴史

昔は、今のようなスーパーもなく、近所の八百屋さんや魚屋さんに買い物かごを持って行き、必要な分だけの買い物をしていたのが普通でした。

レジ袋の誕生は、1965(昭和40年)年ごろです。

梨狩りで使っていた竹で編んだかごが、女性客のストッキングに引っかかることが不評だったため、それに目をつけた製袋メーカーが、今まであった取手付きのポリエチレン袋を改良。これが好評だったため、スーパーがレジ袋に採用したのが始まりとされています。

1970年代後半には、丈夫で使いやすい紙袋よりコストが安いことから、多くのスーパー

で使用されるようになり、レジ袋は、わずかな間で私たちの生活に定着していきました。

散らばったレジ袋

自然界でいつまでも分解されずに散乱するレジ袋。

イルカやウミガメなどの海洋生物は、海中に漂うレジ袋をクラゲと間違ひ誤飲して死亡するケースが多く、日本でもレジ袋などのプラスチックの誤飲が原因でイルカが死亡するケースが後を絶ちません。

最近では、広島県宮島の鹿が観光客に群がり、服やおみやげの買い物袋に噛み付いたりして、死亡した鹿の胃の中から多量のレジ袋が見つかったというニュースが放送されました。

どうしたら減らせる？

○マイバッグ・キャンペーンの効果と限界

菊池市をはじめ、全国で市民や行政による積極的なマイバッグ・キャンペーンが繰り広げられ、マイバッグは確実に浸透しています。

レジ袋の削減は、消費者の選択で実現することから、消費者にレジ袋の問題を知ってもらい、行動につなげていくキャンペーンは、最も基本的で重要な取り組みといえます。

しかし、それと同時に経済的なインセンティブ(動機付け、誘因)などの手法を用いなければ

ば「タダでいくらでもレジ袋がもらえる」ということになり、「もったい方が得をする」ということになってしまいます。

マイバッグは浸透しても、「おしゃれなマイバッグの中にレジ袋」といった状況が見られるのも現状です。

○レジ袋辞退者への特典

レジ袋辞退者に、スタンプやシールなどを交付し、ポイントがたまったら金券などとして使えるシステムを導入しているスーパーなどもあります。

特典方式は、消費者の経済的負担が増えないメリットがあります。お店が積極的にこの方法を推進していきけるような仕組み

づくりが求められます。

○レジ袋の有料化は起爆剤になるかもしれない

全国の一部の生活協同組合やスーパーでは、レジ袋を有料にして高いマイバッグ持参率(60〜90%)をほこっています。

レジ袋削減を大きく進める、レジ袋の有料化などの価格誘導的措置は、有効な手段といえます。

菊池市におけるレジ袋使用の現状と削減の意義

菊池市内で使用されるレジ袋の推定枚数と、包装削減に伴う効果は上表のとおりです。

○菊池市内の事業者のレジ袋購入に伴う年間推定コスト

レジ袋の1枚の単価を約2円で算出すると、約2,632万円になります。

事業者は、その他にも容器包装リサイクル法に伴う委託料を

タダでくれるレジ袋かかるお金は？

「容器包装リサイクル法」で大手スーパーが支払う再商品化委託料の8割がプラスチック製容器包装で、年間4〜5億円にものぼると言われています。

1998年に1枚6円で、レジ袋の有料化を開始した東京の某スーパーがあります。当初、売り上げが20%落ち込んだものの、1年ほどで回復しました。

「コストを抑えて良い物を安く」という経営方針が消費者に支持され、近年では、10%の売り上げの伸び率を記録しています。

レジ袋辞退率も、平均8割程度にものぼっています。

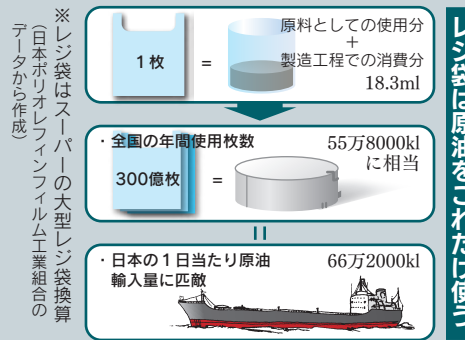
レジ袋を断るのはいいこと？

ほとんどの店で、レジ袋はタダでいくらでももらえることから、「ごみの過剰包装袋」や「ごみ」として安易に廃棄されているのが現状です。

レジ袋を削減する意義は、①廃棄物の減量、②石油資源の浪費・地球温暖化の抑制、③消費行動からの環境意識の形成などがあげられます。

輸入する原油の「1日分弱」を使用！

業界団体の試算では、レジ袋1枚を製造するには原料の原油に換算して18.3mlが必要とされています。また、現在、レジ袋の6割弱は輸入製品だと言われています。二酸化炭素(CO2)の削減量で考えても、気候変動による異常気象を実感する今、地球温暖化の抑制のために、レジ袋の削減は、私たちに実践できる緊急課題です。



レジ袋は、液体の容器や生鮮食品の包装と違い、マイバッグを持参するなど、私たち消費者自身が注意すれば代替可能で、実効性があります。

菊池市内のレジ袋使用枚数(推定)

市内全体の年間使用枚数	市民一人当たりの年間使用枚数	市内一人当たりの一週間使用枚数	市内一世帯当たりの年間使用枚数
約1,316万枚	約250枚	約4.8枚	約760枚

※菊池市H18.7末人口 52,649人
世帯数 17,329世帯で算出しています。

包装の削減に相当するごみ処理費用削減効果

削減率	ごみ処理費用削減額
30%削減した場合	約438万円
50% "	約730万円
70% "	約1,022万円

※ごみ処理経費には、ごみ処理施設の整備に要する経費なども含まれていますので、レジ袋の削減がすべて直接的にごみ処理費用の削減につながるわけではありません。



次は、皆さんそれぞれが行動を起こす番です

多くの燃料と費用をかけて作ったレジ袋も、最終的にはまた多くの費用をかけて処分という、本当にもったいない話です。

熊本県ごみゼロ推進市民会議と熊本県では、毎年10月の3R推進月間に「マイバッグ・キャンペーン」を行い、マイバッグ利用によるレジ袋の削減・簡易包装の推進を呼びかけています。菊池市マイバッグ運動推進市民会議でも、10月を強化月間としてキャンペーンを実施しました。

近年、ごみやリサイクル問題への関心は高まっていますが、環境負荷の少ないライフスタイルが定着しているとはいいたがたい状況にあります。

菊池市マイバッグ運動推進市民会議では、平成10年からキャンペーンを実施していますが、マイバッグの持参者は1回につき平均約18人という状況です。

最近では、「お買い物にはマイバッグ」を作詞・作曲した、野中秀樹さん(市職員)のご家族による「マイバッグ音楽隊」の各イベントなどでの活動も、各方面から好評を得ています。

皆さん、これを機にレジ袋を断り、自分のお気に入りのマイバッグを持って買い物に行きませんか？

マイバッグは、わざわざ買う必要はありません。家庭にあるバッグやふろしきでかまわないのです。「お買い物にはマイバッグ」で買い物する皆さんの姿であふれる街になることを願っています。



市内スーパーでの「マイバッグ音楽隊」による活動